

めぐみイエス・キリスト教会

2023年1月22日(日)第四主日礼拝

午前10時より

週報「通算第641号」



2023年標題聖句

第Iヨハネの手紙第5章4節～5節

《神から生まれた者はみな、世に勝つからです。私たちの信仰、これこそ、世に打ち勝った勝利です。世に勝つ者とはだれでしょう。イエスを神の御子と信じる者ではありませんか。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌411「御恵みの高嶺に」 p. 658

【交読文】 No.26 詩篇第84篇 p. 899

【賛美Ⅱ】 新聖歌428「キリストには代えられません」p. 690

【使徒信条・主の祈り・先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル曲No.1「愛の国となるために」

【聖書朗読】 使徒の働き21章18節～26節 新約p. 279下段

【礼拝説教】 《主の兄弟ヤコブの提案》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌166「威光・尊厳・栄誉」 p. 236

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

●ポイント1. 「主の兄弟ヤコブ」とは？

■主の兄弟ヤコブ 主イエスが十字架上で死ぬ以前は、主を信じていなかったが、復活の主イエスの顕現に接して以来、主を信じ、弟子たちの仲間に加えられた。ヤコブは主イエスに次ぐ年長者であったと思われる。ヤコブはエルサレム教会が組織された最初から、その教会の重要な地位にあり、最初の牧師であった。伝承では、殉教の死を遂げたと伝えられている。

●ポイント2. 「第一回エルサレム教会会議の結論」とは？

※使徒の働き15章13節～20節「ヤコブの発言」(新約p.265)

15:13 二人が話し終わると、ヤコブが応じて言った。「兄弟たち、私の言うことを聞いてください。」

15:14 神が初めに、どのように異邦人を顧みて、彼らの中から御名のために民をお召しになったかについては、シメオンが説明しました。

15:15 預言者たちの言葉もこれと一致していて、次のように書かれています。

15:16 『その後、わたしは倒れているダビデの仮庵を再び建て直す。その廃墟を建て直し、それを堅く立てる。

15:17 それは、人々のうちの残りの者とわたしの名で呼ばれるすべての異邦人が、主を求めるようになるためだ。

15:18 昔から知らされていたこと、それを行なう主の言葉。』

15:19 ですから、私の判断では、異邦人の間で神に立ち返る者たちを悩ませてはいけません。

15:20 ただ、偶像に供えて汚れたものと、淫らな行いと、絞め殺したものと、血とを避けるように、彼らに書き送るべきです。」

●ポイント3.「パウロの信条」とは？

※第 I コリント9章19節～21節「何人かでも救う為」(新約p.339)

9:19 私はだれに対しても自由ですが、より多くの人を獲得する為に、すべての人の奴隷になりました。

9:20 ユダヤ人にはユダヤ人のようになりました。ユダヤ人を獲得する為です。律法の下にある人たちには(私自身は律法の下にはいませんが)律法の下にある者のようになりました。律法の下にある人たちを獲得する為です。

9:21 律法を持たない人たちには(私自身は神の律法を持たない者ではなく、キリストの律法を守る者ですが)律法を持たない者のようになりました。律法を持たない人たちを獲得する為です。

◎先週の礼拝メッセージ【勝利の秘訣とは】

《2023年標題聖句から、すでに与えられている「勝利」の秘訣を、聖書のみ言葉から共に考えて行きたいと思います。まず、最初のポイントは、「主イエスの約束をしっかりと握りしめる」ことです。主は、「これらのことをあなたがたに話したのは、あなたがたが私にあって平安を得る為です。世にあっては苦難があります。しかし、勇気を出しなさい。私はすでに世に勝ちました。」と約束されました。私たちは、聖書を一言一句誤り無き「神の言葉」と信じる者です。主が教えられたみ言葉を信じ、そしてそこに望みを置くのです。み言葉に留まるのです。

次に大切なポイントは、私たちの体は「神(聖霊)の宮」であることを、しっかりと認識することです。『あなたがたは知らないのですか。あなたがたのからだは、あなたがたのうちにおられる、神から受けた聖霊の宮であり、あなたがたはもはや自分自身のものではありません。』と、使徒パウロは勧めています。聖霊様は、何時も共におられます。

そして、三つ目は、私たちの敵である悪魔は、人や状況を用いて、私たちの思いに攻撃を仕掛けて来ます。その様な時に、私たちは自分の思いと語る言葉に最善の注意を払う必要が有ります。主イエスは、ある時パリサイ人や律法学者たちを叱りつけたことがありました。「まむしの子孫たち、おまえたち悪い者に、どうして良いことが言えますか。心に満ちていることを口が話すのです。人は、口にするあらゆる無益な言葉について、さばきの日に申し開きをしなければなりません。あなたは自分の言葉によって義とされ、また自分の言葉によって不義に定められるのです。」と。この言葉は、私たちにも当てはまります。私たちの口から、神様への賛美の他に、人や状況に対する怒りや呪いの言葉が出てくるような事は無いでしょうか。私たちの中に住まわれる聖霊様は、私たちが語る言葉をすべて聞いておられます。》

お知らせ

※次回の礼拝は、1月29日(日)です。第五主日ですが、特別メッセージではなく、引き続き「使徒の働き21章」から学んで行きます。